

# 住宅リフォーム予算は足りない、補正予算を！

日本共産党議員団は6日、村山秀幸市長あての新型コロナ対策の要請書を提出しました。新型コロナ対策関連での要請はこれで6回目となります。この日は議員団メンバー3人で総務管理部長を通じて要請しました。

要請内容は、以下の3項目5点です。

1、住宅リフォーム促進事業について、後期募集に向けて思い切った補正予算を計上し、希望する市民の要望に答えられるようにすること。

2、「上越市新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う事業者経営支援金給付規則」第3条第1項「比較対象期間におけるそれぞれの各月の売上高が、基準各月売上高、令和元年平均売上高又は創業者平均月額売上高と比較をして、すべての

月で売上高が減少しているもの」を「比較対象期間における各月の平均売上高が、基準各月の平均売上高、令和元年平均売上高又は創業者平均月額売上高よりも減少しているもの」とすること。

3、生理の貧困対策を強めること。

①児童・生徒が安心して通学でき、健康で衛生的な生活を送ることができるように、学校施設の女子トイレ個室に適切な返却不要の生理用品を配備すること。

②必要な児童・生徒には生理用ショーツを配布すること。

③養護教諭らに、生理をはじめ心や体の悩みを気兼ねなく相談できる環境を整備すること。

議員団は要請書を手渡した後、笹川総務管理部長と懇談しました。そのなかで



私は、「今回の要請内容は市民から寄せられた切実なものである。いずれも早急に検討し、対応していただきたい」とのべました。笹川部長は市長、関係部局に伝えると答えました。

## 総務委、市の自治の仕組みをめぐって市民と意見交換

総務常任委員会は6月30日、「住民自治・地域自治について市民のみなさんのご意見を聴く会」を市民プラザで開催しました。公募や委員推薦の市民など24人が参加してくださいました。

会の中では、「地域活動支援事業は予算ありきで、どういう地域づくりをするかという視点が欠けているのではないか」「地域のために予算がうまく使われているように見えない」「公の施設の適

常任委員会の今回のテーマ設定自体が硬すぎる。もっと市民にわかりやすい言葉を使ってほしい」などの発言が強く印象に残りました。

総務常任委員会では、今後、今回出された意見を一つひとつ検討し、議論を深めていく予定です。意見交換会も、また開くことになるでしょう。



【タイサンボク】モクレン科の常緑高木。漢字で「泰山木」または「大山木」と書きます。名前の通り樹高は高く、20mにもなるとか。花は5月から7月、白い花を咲かせます。高い位置に咲くのでなかなか見つかりません。私は今回初めて見ました。花言葉は「前途洋々」「威厳」。写真は7月3日、高田公園内で撮りました。



正配置計画では、利用者数や財政効率だけで決めないでほしい。地域にその施設があること自体に意味があるものもある」「地域協議会の自主審議は、まずは地域協議会が地域に入って、そこでの声を踏まえてテーマを設定し、審議すべきだ」「地域協議会委員を育てる視点が必要だ」「総務

7月15日の午前、清里中学校一年生による模擬議会が市議会本会議場で行われます。

6日には、議会改革推進会議のメンバーが清里中学校を訪れ、同校一年生の事前学習に参加しました。私もオプザーバーとして参加させてもらいました。

この日は模擬議会でも質問する項目の整理を議会のメンバーのアドバイスをもらいながら行っていました。

15日は、不審者対策、清里の特産物の考え方、地域交通など新鮮な質問が出ています。



模擬議会に向け、準備着々

# はしづめ法一の活動レポート

No.2019 2021.7.11

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第六六六回

## 花開く瞬間

オオマツヨイグサのつぼみが膨らみ、花が一枚、二枚とはじけるように開いていく。開き始めてからすべての花びらが開き終わるまでわずか一、二分の出来事でした。二〇二一年六月二十五日午後七時過ぎ、こんな感動の一瞬がやってくるとは……。

大潟区雁子浜のKさんから電話をもらったのは六月議会の最中でした。「月見草が咲き始めました。良かったら見に来ませんか」とのお誘いでした。そして六月二十五日、柿崎の百足屋で買い物をしていた時、いま一度お誘いの電話をいただきました。

電話は、「今年はいつてもよりも早く咲き始めていて、昨夜は百個からの花が開いた。今夜も六〇個から七〇個は咲くでしょう。花が開き始めるのは午後七時少し前になります。だから、七時頃来ませんか」といった内容でした。

この言葉を聞いたときには、電話で聞いた花が一日花だという意識はなく、「たくさん花を咲かせて賑やかな感じになるのかな」くらいのイメージで電話を受けとめていました。だから、毎週の活動レポートに連載している花の紹介欄で使わせてもらおう、そんな気持ちでした。

夕方になって、私は家を予定よりも少し早く出ました。というのは、月見草の写真を撮る前に、上下浜海岸で夕日または夕焼けの写真を撮ろうと思っていたからです。この日は水平線の少し上に雲があって、海に沈む夕日は撮れませんでした。赤い夕陽と海面に細長く映る夕日の光が見事でした。何枚かの気に入った写真を撮ることができたので、Kさん宅へ向かいました。

旧国道からKさん宅へ向かうと、Kさん夫婦がすでに家の外に出て、私を待っていてくださいました。それだけ、私に見てもらいたいという気持ちが強かったのかも知れません。車をKさん宅にとめさせてもらい、さっそく花を見ることにしました。

Kさんが月見草と呼んでいたオオマツヨイグサは道路脇の電柱を挟んで二つに分かれていました。すでに黄色の花のいくつかは開き終わっていました。Kさんは、私に向かって、花の様子について解説し、細長いつぼみが膨らみ始めたものを指差し、「これはもう少しだね」「これは、あと五分はかかる」などと言われました。おそろく、これまでたくさんのおオオマツヨイグサの花たちを見て来られたので、直感で、花びらのすべてが開くまでの時間を予想できるでしょう。

この段階まで来て、Kさんが電話をくださった理由がわかりました。単にオオマツヨイグサの花を見てほしいのではなく、花びらがすべて開く瞬間(とき)を見て、撮ってほしいということだったのです。

「ほら、咲いた」「これもすぐだ」。Kさんの、そうした声を聴いて、私はデジタルカメラの動画モードで撮る気になりました。Kさんやお連れ合いから、「これがいいよ」と勧められたつぼみのそばでカメラを構えることにしました。

構えて一分経つか経たないうちに、つぼみがかすかに動き始めました。向かって右側の方がゆっくりゆっくり膨らんできました。そして、他の花びらを押しつけるようにして一枚の花びらがさっと開きました。さらにほかの花びらも動き始めました。見ている方としては、じっとしてはいられませんが、「よし、いいねえ、もう少しだよ」、そんな声を掛けながら待ちました。その直後でした。残りの三つの花びらがいつせいに開き、全開となったのは……。

オオマツヨイグサのつぼみが開き始め、すべての花びらが開くまでわずか一、二分、花の開く過程がこんなにも美しく、人の心を揺さぶるとは思いませんでした。自然界での一瞬の出来事に、私は心の中で大きな拍手を送りました。

## 松野一治さんの似顔絵展と専敬寺の掲示板

### ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月30日(水)	7月7日(水)
上越南消防署	0.040	0.053
上越北消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.060	0.073
東頸消防署	0.053	0.057
名立分遣所	0.050	0.067
高士分遣所	0.053	0.053

7月3日、安塚区小黒の専敬寺で開催されていた榎田の松野一治さんの似顔絵展を観てきました。

似顔絵展は土曜日ということもあって、とても賑わっていました。

松野さんは、私を見つけると、案内をしてくださいました。「似顔絵も観てもらいたいけど、こちら」と最初に見せていただいたのは四字熟語の巻き物でした。2年ほどかけて100巻にもなるという巻き物を書かれたのですが、圧倒されました。巻物は四字熟語だけでなく、遠藤周作の小説「沈黙」などの書きうつつもありました。

そして似顔絵です。5年前に通信講座で学んだという似顔絵ですが、はがき大の用紙に描かれた人物は、その人の特徴をよくとらえたものになっていました。その数は1年間に1100人以上になったといえますから、すごいですね。驚いたのは似顔絵だけでなく、その人物の経歴なども書かれていたことです。浦川原出身の歌人、山田あきや作家の小林多

喜二などの説明文を読みましたが、よく調べて書いてありました。几帳面な方なんですね。身近なところにこんなすごい人がいるとは……。

専敬寺の訪問は久しぶりで、駐車場脇の掲示板には、地元出身で、「森のようちえんてくてく」の小菅江美さんの言葉、「さあ森へいこう」が書かれていました。地元出身で現役の人の言葉がお寺の掲示板に載っているのは初めて見ました。とてもいいですね。

